

年間第15主日

福音朗読 マルコ 6・7-13

2024.7.14 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日の福音では、イエス様が12人の弟子たちを福音宣教のために派遣される——ご自分の働きに加わる者として弟子たちを派遣された、そういう場面が読まれましたけれども、イエス様が一番目標とされているその福音の実現とは何でありましょうか。

それは、決して一つの何か新しい組織が、沢山の人が加わった強力な組織ができるということではないわけです。そうではなくて、すべての人が神様の似姿としての在り方を取り戻すということでした。それは、もっと簡単に言えば、愛である神様、その似姿に造られた人間が互いに愛し合うことを発見する、と言いましょか、実現していく、自分の中にその愛があるということに出会い、そして自分の思い煩いや関心のことだけに留まって閉じ籠ってお互いが分断されているのではなくて、全人類が互いにその愛によって助け合う、つながり合う、そのような者になるっていうのが、イエス様の目指しておられた、そして今でも目指しておられることなんだと思います。

そういう意味では、教会ができるっていうことが最終的なイエス様の目標ではない。教会が必要ないとは言いませんけど、それは、神様の望んでいることが、互いに愛し合うということが実現するまで、そのことが最も大切なんだって絶えず意識し合いながら人類の中でそれを証ししていく、訴えていくっていうために助け合う、そしてイエス様の望んでいることをいつも人類の中で忘れ去られないように保っていく、そういう意味で、完成の時までは教会に一定の使命があるということを信じますけれども、それが最終目的ではない。

だから、弟子たちが出かけて行った、派遣された目的というのは、何か一つのグループを形成するというわけではないわけです。「悪霊を追い出す」——その悪霊っていうのは、福音の中では、人と人との分断し、人と人との中に神の子である愛がある、一人ひとりの中にそれがあっていうことを忘れ去られるようにする、そういういろんな力や困難を通して人間の中に入って来るそういう思い、それを悪霊と言うことができるわけです。そこからの解放のために弟子たちが遣わされたというのが今日の福音です。

でも一方で、互いに愛し合うということを実現していくために弟子たちが派遣されたならば、弟子たちが他の人のために何かをしてあげるということもあるでしょうし、でも一方で、弟子たちも出かけていった先で出会う人々にお世話になる、そういうつながりが、関係があるということを決して忘れてはならない。だからイエス様が、自分たちだけで何か賄えるような全部を持って行かないように——ってというのは、互いに助けたり助けてもらったり、そういうつながりの中に神様のみこころがあるのだということを示す、そういう意味があるんじゃないかなと思うわけです。

だから、わたしたちもこのミサを通してイエス様とともにあるという思いを新たにし、またそれぞれの生活の場に派遣されていく、それが誰かのために何かをしてあげるという一方的な関わりだけではなくて、わたしたちの側もいろんな人にお世話になっているっていうことを改めて思い起こす、そして感謝するということも福音宣教の大事な要素だと言えるでしょう。相手の中にある愛の業を感謝して受け取ることを通して励ますってことです。だから、何か特定の活動だけではない。お互いの中で、やってもらうことに対して感謝し、そして自分がその時になったら、そのめぐり合わせによっては誰かのために何かをしようと思ってしまう、そういうことを通して、イエス様の願っていらっしゃる事が実現していくってことなんじゃないかなと思うんです。

感謝するっていうことも大切な福音宣教の一部であるわけなんで、わたしなんか思い起こすのは、例えば、電車の中で席を譲られた経験ってある人もこの中で多いんじゃないかと思うんですけども——わたしがまだそういう経験がないので、他人の事だから良く気が付くと思うんですけど——席を「どうぞ」って言われて、大体は、たぶん皆さんも、「大丈夫です」って言った経験ありませんか？ それは、自分にとっては大丈夫かもしれないけど、相手の中にある愛を励ますっていう信仰の行為からしたら、大切な福音宣教の機会を逸していると言わなければならないわけです。福音宣教って誰かを教会に引っ張って来ることじゃないんです。そうではなくて、一人ひとりの中にある愛が湧き出て来るのを励ますって行為だから、たとえその瞬間に自分は座る必要がなかったとしても、相手のその気持ちを受け取って有難そうな顔をする、それが神様に成り代わっての行為であって、そのことを通して助け合う文化が——その席の話で言うならば、その譲ろうとした人が、将来誰かほんとにその席を必要としている人に出会ったときのために、そのような行為を止めてしまわないために感謝するんだというつながりもあるわけです。他人の事については良く気が付くんですけど、わたしたち、例えば自分はそういう機会ってあるのかなあってそれぞれ考えてみる必要があります。

だから、相手の行為を感謝して受け取るということそのものの中に、神様の業に協力するっていう要素を含んでいるんだっていうことを、信仰を持っている人は意識しなければならない面もあると思います。しかし、例えば有難迷惑っていうことでもあります。有難迷惑をなんでも受け取らなければならないとは言ってるわけではないわけです。でも、そういう場合でも、その態度とか言い方ってあります。

わたしなんかは、今外国人の支援センターで色々な活動をしていますけども、そこで支援物資っていうのを、寄付をくださるときがあります。「こういう物が必要です」って呼び掛けてるんだけど、呼びかけている物以外もくださるときがありますし、また、ちょっと使い物にならないような——と言ったら申し訳ないですけども——古着、だから古着は呼び掛けてないんですけども、そういう物をくださるときがあるけど、まあほんとにどのように「いや、こういう物は使えないですよ」とか「今これは必要ないですよ」っていうのを相手に伝えようか、でもそのお気持ちは大切にしながら、っていうことで、スタッフ一同そういう場合に頭を悩ましています。でも、「そんなことは有難迷惑なんだから、困った人だねえ」っていうふうに切り捨ててはならないんだらうなあっていうのが一方ではあります。

これはセンターとしての活動についてだけでも、わたしたちも一人ひとりの日常の、個人と個人のつながりにおいても、やっぱり基本的には相手の中にある愛を励ます、そして神様の恵みのうちに自分の中にある「他の人のために」っていう思いにも出会っていくっていうことが大切なのでしょう。それがまさにイエス様とともに福音宣教をするという行為そのものなんだと言えるんじゃないかと思います。

今日、最後には「しかし、あなたがたを迎え入れず、あなたがたに耳を傾けようとしめない所があったら、そこを出ていくとき、彼らへの証しとして足の裏の埃を払い落とさなさい」(マルコ 6・11) っていう一言が出てまいりました。これはどういうことなのかっていうのを確認しておかなければならないかなって思います。これは、文字通りっていうか、ちょっと一見すると、あなたがたを迎え入れず、あなたがたに耳を傾けようとしめない人がいるならば——わたしたちが誰かを愛そうとしても相手に気持ちが届かないっていうときもあります——そういうときには、あなたがたも相手を迎え入れず、耳を傾けないようにしなさいっていうふうに呼び掛けられているのか。そうではないように思います。足の裏の埃を払い落とすっていうのは、むしろ、日本的な言い方をすれば「相手と同じ土俵に立つなよ」と言うことかなではないかなと思います。つまり、心の中で足の裏の塵を払い落とし、相手のそういう悪影響を受けないで、あなたがたのほうは同じ土俵に——まあ、イエス様の時代は土俵って知らないんでしょうけども——足の塵、つまりおなじ場所に立つ

な。おんなじ所っていうのは、相手が拒否するから自分も拒否するっていう相手のペースに飲み込まれていかないようにっていうご注意として受け取ったほうが自然なのかなって気がします。

わたしたちは良い影響はなかなか受けにくいんですけども、悪い影響っていうのは結構簡単に受けてしまうところがあります。「相手にこういうことを言われたから、今度、そういうときにはわたしもこういうふう言い返してやろう」って心の中でイメージトレーニングしてしまう。でも「相手にこういうふうな態度をとられたから、でも自分はそういう場合でも、その時には自分も拒否的な態度だったけども、次の時には受け入れることができるように」っていうようなイメージトレーニングはなかなかしないわけです。そうなんじゃないかな？ 皆さんはどうか分かりませんか。皆さんをわたしと同一視して巻き添えにする必要はないんですけども。

それぞれ、神様、イエス様の呼び掛けに信頼して、自分の中にも愛があるんだということをイエス様によって励ましていただくと同時に、わたしたちが日々出会う人々から受ける色々な行為やお世話になるっていうときにほんとに感謝するっていうことを通して、相手の中にある愛を励ましていく、お互いのそういうつながりのことがまさに福音である。それを通してわたしたち、すべての人が、そして自分自身も、神の似姿である、愛である自分自身に出会い、そして互いに愛し合うことができますように。それぞれの生活の中でどのようにすることが相応しいのか、心の目を開いて、そして知恵を使って見出していくことができますように。イエス様の導きを願いながらイエスとともに歩む、その恵みを新たに受け取りたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>